

## CIMB グループホールディングス (CIMB)

### 交通系ICカードのタッチアンドゴーは国内の約半数が登録ユーザーとなり、スーパーアプリとして普及が加速

#### マレーシア | 銀行 | 業績フォロー

BLOOMBERG CIMB:MK | REUTERS CIMB.KL

- 2020/12通期は、営業収益が前期比3.4%減、経費率が同1.2%ポイント低下、貸倒損失引当金繰入額が同4.0倍、当期利益が同76.2%減。
- 4Q (10-12月) の前四半期比では、期末グロス不良債権比率が悪化したものの、営業収益および純利益が増益と、改善傾向を示した。
- 交通系ICカードのタッチアンドゴーは登録ユーザー数がマレーシアの約半数に達し、同国きっての「スーパーアプリ」の地位を占めた。

#### What is the news?

2/26発表の2020/12通期は、営業収益が前期比3.4%減の171.89億MYR、営業費用が同5.5%減の89.77億MYR、貸倒損失引当金繰入額が同4.0倍の67.98億MYR、当期利益が同76.2%減の11.94億MYRとなった。コスト管理により経費率が同1.2%ポイント低下（改善）の52.2%となったものの、不良債権処理関連費用の急増が響いた。その一方、4Q (10-12月) の前四半期比は、GIL（グロス不良債権比率）の4Q末が前四半期比0.2%ポイント上昇（悪化）の3.6%と信用リスク悪化に歯止めが掛かっていないものの、営業収益が5.6%増、純利益が10.8%増と改善が示された。

通期営業収益の内訳は以下の通り。①純金利収益は前期比0.5%増の127.25億MYR。純金利マージン（NIM）が同0.12%ポイント低下の2.34%となったが、利息を生む資産の平残が増加したことで増収を確保。貸出債権の一次的条件変更の影響を除く純金利収益は同1.4%増だった。②非金利収益は同13.1%減の44.64億MYR。トレーディング・FX取引が同5.5%増だったが、手数料その他収益が同24.8%減だったことが響いた。

セグメント別の通期税引き前利益は以下の通り。①消費者向け銀行業務は前期比66.5%減の6.31億MYR。②商業銀行業務は前期の3,471万MYRから▲3,400万MYRへ赤字転落。③ホールセール銀行業務は前期比81.8%減の3.62億MYR。④デジタル資産およびグループ・ファンド業務は同50.8%減の5.81億MYR。⑤イスラム金融業務は前期比44.3%減の9.12億MYR。

#### How do we view this?

2021/12通期の会社計画は、ROEが6.0-7.0%（前期2.1%）、総貸出残高の伸びが4-5%（同1.0%減）、貸倒損失率が0.8-0.9%ポイント（同1.46%ポイント）、経費率が52%以下（同52.2%）と、貸出増加と貸倒損失に係る状況の改善を見込む。同社はマレーシア国内で首位の電子ウォレット企業であるTouch'n Go Digitalを完全子会社化している。同社カード「タッチアンドゴー」はJR東日本のSuicaのように交通機関の運賃の支払いにとどまらず様々な料金の支払いに広く利用されており、マレーシアきっての「スーパーアプリ」（日常生活のあらゆる場面で活用できる統合的なアプリ）の地位を占めた。昨年末の登録ユーザー数は前期末比2.2倍の1,520万人とマレーシアの人口の約半数に達し、年当たりアクティブユーザー数も同2.5倍の1,050万人と加速度的に普及しつつある。

#### 業績推移

※参考レート 1MYR=26.49円

事業年度	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12F	2022/12F
当期利益(百万MYR)	5,583	4,559	1,194	3,752	4,822
EPS (MYR)	0.60	0.47	0.12	0.38	0.48
PER (倍)	7.55	9.64	37.75	11.92	9.44
BPS (MYR)	5.37	5.67	5.53	5.91	6.13
PBR (倍)	0.84	0.80	0.82	0.77	0.74
配当 (MYR)	0.25	0.26	0.17	0.17	0.22
配当利回り (%)	5.52	5.74	3.75	3.75	4.86

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想 (MYR)	0.17	(予想はBloomberg)
終値 (MYR)	4.53	2021/3/15

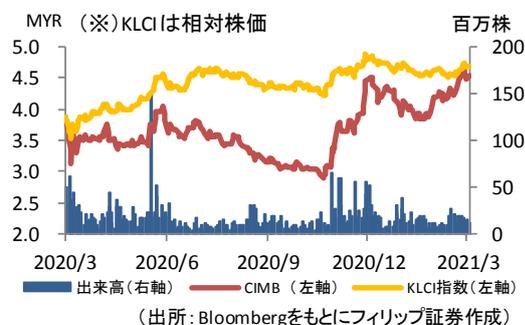
#### 会社概要

1924年創業。CIMBとは、Commercial International Merchant Bankers (商業国際貿易商銀行) の略である。マレーシアではメイバンクに次ぐ規模の金融グループである。世界のイスラム金融ではトップクラスのユニバーサルバンクであり、投資銀行部門はアジア太平洋を拠点とする中でも最大の投資銀行の一つである。

主な業務として、①消費者向け銀行業務、②商業銀行業務、③ホールセール銀行業務、④デジタル資産およびグループ・ファンド業務、⑤イスラム金融業務を営む。マレーシアのクアラルンプールに本社を置く同グループは、アセアン10カ国すべてで業務を展開。アセアンで最も広範な支店網を有し、2020年12月末現在、従業員数は約34,000人、支店数は668店に上る。アセアンのほか、中国、香港、インド、韓国、米国、英国にも拠点を置く。

#### 企業データ (2021/3/15)

ベータ値	1.17
時価総額(百万MYR)	45,050
企業価値=EV (百万MYR)	-
3ヵ月平均売買代金(百万MYR)	61.1



#### 主要株主 (2021/3)

株主名	(%)
1. ガザナ・ナショナル	27.22
2. EMPLOYEES PROVIDENT FUND BOARD	16.03
3. AMANAH SAHAM NASIONAL BHD	10.87

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

#### リサーチ部

笹木 和弘  
 +81 3 3666 6980  
 kazuhito.sasaki@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 4 番 2 号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘  
リサーチ部 李 一承

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

・ 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。